



阿賀野市立 安田小学校

- ◆学校データ
- 【学級数】18学級
- 【児童生徒数】421人
- 【地域コーディネーターの有無】無

地域とふれ合い、探究活動をとおして進んで学ぶ

1 はじめに

当校の学区は、県内酪農発祥の地として知られ、乳製品に加工して販売する会社の人気が高い。全国展開している製麺工場、瓦づくりや焼き物の工房などもあり、風土・文化を生かし、地元食材にこだわった新感覚のレストランも話題になっている。

しかし、児童は、自分たちの学区にどんな産業があり、地域が何に力を入れて発展を目指しているかといった地域の魅力について、まだあまり関心がない。

現在、旧安田町の5つの小学校が1校となった。統合により広がった学区の、どのような「人・もの・こと」に焦点を当てて、児童に地域の魅力に気付かせ、そこで働く人たちの生き方に学ばせていくかが、課題である。

2 取組の実際

当校では、地域教育プログラムの中核に総合的な学習の時間や生活科を位置付けている。総合的な学習の時間では、次の7つの資質・能力の育成を目指している。

- 1 課題設定の能力
- 2 問題解決の能力
- 3 学び方・ものの考え方
- 4 情報収集・活用・発信能力
- 5 学習への主体的・創造的態度
- 6 コミュニケーション能力
- 7 自己の生き方について考察する能力

【ほたるっ子調査隊の取組より（4学年）】

- (1) 育成を目指す資質・能力
 - ・ 活動を通して新たな課題を見付け、解決の計画を立てる（1・2）。
 - ・ つまづきや失敗を解決する方法を工夫する（3）。
- (2) 学習の実際

① 「ほたる」という言葉が校歌や校章ばかりでなく地域でも使われている理由を考えたり、昔の地域の様子を調べたりすることをとおして、地域の環境が変わってきていることを理解する。

② 校区を流れる都辺田川の水生生物を調べ、現在の地域の水質環境について知る。

③ 自分たちにできることを具体的に考え、実際に



只今、水生生物調査中

やってみる。

(3) 児童の様子

- ・ 学習を進める中で、児童から、グラウンド脇にあるビオトープを水辺の生き物がたくさん見られるビオトープにしたい、ほたるが飛び交う安田を再現したい、という願いが高ま

った。そこで、ビオトープ再生の計画を立てさせた。水路掃除からはじめ、ビオトープへの関わり方と呼びかけるポスターを作って全校に呼び掛けるなど、児童の願いに沿った活動を展開することができた。

- ・ 自分たちの力で、ビオトープ再生を実際に行動し実現させた。草や木くずで覆われていた水路の石や泥を取り除き、水路に水が流れた時には、子どもたちから歓声が上がった。



ビオトープ再生のために、がんばるぞ！

(4) 児童の振り返りより

- ・ わたしたちが大人になっても、ずっときれいなまま大切に使ってほしいです。たくさんの人に使ってもらえるといいです。
- ・ 毎日見るたびに楽しくなるようなビオトープがいいと思います。流れ続けてほしいな。とう明なまがいいな。そのために、年に1回はきれいにする活動をしたいです。何年後もきれいであるように、ずっと活動していきたいです。
- ・ これからもいろいろなことをし、もっといろんな所をきれいにし、いい地域・町をつくりたいです。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

(1) 成果

この探究活動をとおして、学んだことから次の新たな課題を見出し、自分たちの力で主体的に解決の計画を立て、取り組む（1・2・5）姿が見られた。

また、ほかの学年の取組からも、課題について情報収集しながら、地域についての知識を得、理解を深める（4・6）ことができている。

さらには、学んだことを地域の人たちにも知ってもらおうと学習発表会で劇にして発表した学年もあった。知り得た地域の魅力を応援したりピーアールしたりする場面がたくさん盛り込まれ、地域を盛り上げたいという児童の気持ち（5・7）がうかがえた。

(2) 課題

資質・能力のうち、発信能力（4）と、自己の生き方について考察する能力（7）は、どの学年においてもやや弱い。

学習をとおして学び得たことを、誰に、何のために、どのように発信すれば、自分たちの思いが達成できるのかを多様に考えさせ、取り組ませていきたい。また、地域と自分の関係、地域における自分の姿などについては、繰り返し考えさせるよう機会をつくっていきたい。

4 おわりに

学区の魅力を調べる活動を重ねることで、児童の地域への関心が高まってきた。今後も、地域の人たちとつながり、児童の地域への興味・関心を高めながら、資質・能力の育成とその活用を促す働き掛けに努める。

地域に関心をもつという点では、成果が表れてきたが、地域の人材に「教えてもらう」「やってもらう」部分が多くなっている。児童の発想を生かした学びをどう構築していくか、そして、「地域に貢献する」「地域を元気にする」という視点での活動をどのように加えるかを今後も検討していきたい。